伊那市子どもの貧困対策推進計画策定状況について

１　目的

〇現在から将来にわたり、すべての子どもたちが夢や希望を持てる社会を目指す。

〇子育てや貧困を家庭のみの責任とせず、子どもを第一に考えた支援を包括的・早期に実施する。

※令和元年６月に子どもの貧困対策の推進に関する法律が改正され、市町村計画の策定についても努力義務化された。市町村計画の策定にあたっては、国の「子どもの貧困対策に関する大綱」及び「都道府県計画」を勘案し、市町村のニーズにあった内容とすることとされている。市では、昨今の家庭状況の傾向を踏まえる中で、この市町村計画を策定する。

２　経過、今後の予定

令和２年12月　　・チーム会議（健康推進課、福祉相談課、学校教育課、生涯学習課、伊那市社会福祉協議会、子育て支援課）にて計画の方向性、調査票検討

令和３年１月～２月　・「子どもの生活状況調査」実施
調査対象：小学３年生～中学２年生児童生徒
（全数3,632人　回収数3,259通　回収率89.7%）
小学３年生～中学２年生児童生徒の保護者
（全数3,632人　回収数2,058通　回収率56.7%）

令和３年度　　調査内容の分析、計画策定

11月10日期限・子育て関係団体等へのアンケート実施

11月～12月　・チーム会議開催
・計画策定作業

１月～２月　　・子ども子育て審議会の意見聴取

３月　　・計画完成

３　子どもの生活状況調査結果概要

・保護者が現在の暮らしを苦しいと感じている世帯ほど、保護者の自己肯定感が低く、子どもの生活満足度も低い傾向にある。

・ひとり親世帯の方が、所得階層が低く、子どもの参観日等の参加がしにくい等、ゆとりを持った子育てが難しい状況にある。

・生活満足度の高い子どもほど、家族や学校の先生に悩み相談ができる傾向にある。